

そばDa迷人・ひと一言

No.157

深まる絆・愛を深めて

2014年12月。またまた、ちょっとした大事件が起きました。

そばDa迷人と愛する妻・チャーボーは、小中学校の同級生。他に同級生カップルがないため、幹事を進んで引き受け、何回かの同窓会を開催しました。8年前、幹事を他にゆだねると無くなっていました。年の瀬も迫ったある日、新聞の計報欄に同級生の名前が…。病んでいたなんて…、風の便りも全く届いていませんでした。年明けに、有志だけのクラス会をやって彼を偲ぼう…と、何人かに電話をかけ始めました。その時です。我が家のちょっとした大事件が起きたのは…。

休憩時間中に年の瀬の特別業務を急がねば…と慌てたチャーボーが、階段を踏み外し転落。動けなくなっていました。パートさんが「女将さんが大変です!」と。救急搬送となり、大腿骨頸部骨折、接合手術を受け1ヶ月の入院をしました。退院後リハビリ通院をしながら、2月には昼の営業を復活していましたが、快復が見られず、否、痛みは次第に強まり、7月になって再手術です。接合できなかつた骨を切り取り、接合用に入れていた金属が軟骨を破つたのが痛みの原因だった為人工関節に置き換える手術となりました。チャーボーの身体が大切です。特に“慌てない!”と決意して、店は、自信を取り戻すまで連続の臨時休暇です。

そんな時、“消灯”で、一人家に帰り、何気にテレビのスイッチを入れると、NHKスペシャル「小笠原の海にはばたけアホウドリ移住計画」が放送されていました。パソコンのキーボードを叩きながらだったので、余り明確な記憶がありませんが、強烈に残るところがありました。それは…。「アホウドリは、一度つかいになると、他の求愛に応じることなく一生添い遂げます」と。ええ!アホウドリが…?

ここで余談ですが、仲睦まじい夫婦を例える鳥はオシドリですよ。このオシドリ、実は…。メスのいない間に言い寄るメスがあるとピョンと飛び乗る!と聞き、なんじゃそりゃ?と思った事が有ります。いい夫婦の代名詞は、オシドリではなく、実はアホウドリだったんですね。

果てさて、チャーボーとボク、オシドリかアホウドリか。詮索はお任せしますが、羽毛取りの対象となって絶滅危惧種になってしまったアホウドリ。その名の由来は、人間が近寄っても恐れず、余りにも簡単に捕殺出来るため、その名が付いた阿呆鳥だそうです。

入院中、日本男性の平均寿命は80.50歳、女性は88.83歳(2014年7月30日発表)の長寿大国と。チャーボーは日に日に快復を見せてくれていますが、長寿国のこの世代の入院患者さんは…。やっぱり健康寿命は75歳までかなあ?。後10年、愛を深めて…と決意を新たにしています。

